



「特別企画 東京・東北 JK 合板会 平成 25 年新春トップ座談会」より抜粋 平成 25 年の住宅・合板建材業界を占う “ 消費税 UP 前の需要増へ ”

東京・東北 JK 合板会の機関紙『JK 合板会 新年号』
特別企画の新春トップ座談会。商社トップの平成 25
年予測を抜粋して本誌読者の皆様にもお届けします。
本年のご商売にお役立てください。

出席者（50 音順）

伊藤忠建材株式会社	代表取締役社長	柴田 敏晶 様
住友林業株式会社	代表取締役副社長	上山 英之 様
双日建材株式会社	代表取締役社長	竹下 昌彦 様
トーヨーマテリア株式会社	代表取締役社長	工藤 恭輔 様
丸紅建材株式会社	代表取締役社長	小室 誠治 様
三井住商建材株式会社	代表取締役社長	高光 克典 様
ジャパン建材株式会社	代表取締役社長	大久保 清 様
	合板部 部長	内藤 裕之（司会）

●国内・輸入合板の今後の流れ

司会 一昨年 10 月頃から価格が低迷していましたが、昨年ようやく値戻しして定着しはじめた国内合板と、比較的堅調に推移しています広葉樹合板。昨年の輸入合板は月平均入荷量 29 万㎡程度になりそうですが、国内・輸入合板の今後の流れについてどのようにお考えでしょうか。

柴田 最初に輸入合板について。昨年 10 月に開催された「三国合板会議」でインドネシア、マレーシアの経営者とお話しましたが、皆さん、まったく元気がない。赤字の話ばかりでした。

一昨年までは合板以外のビジネスである石炭、パームオイルが非常に儲かっていて、それで稼いでいるから合板は多少損しても已む無いと言う雰囲気でした。

しかし、昨年は資源価格の下落に伴って、インドネシアでは石炭がトン当たり US85 ドルだったものが、半値近い US45 ドルまで下がり、採算割れ。パームオイルもトン当たり US1000 ドルが、US700 ドルに下がり、こちらはまだ利益は出るものの、利益率が大幅に下がっており、彼らも尻に火がついてきたなという印象が非常に強いものでした。そうした中で、今年 1 月からジャカルタ特別州の一部で、最低賃金が 44%もの大幅に上がる。全国で 44%上がる訳ではないけれども、人件費が 15～20%上がることとなり大幅なコス

トアップになる。そうした中で、年末にインドネシアの合板工場 1 社が閉鎖、1 社が大幅縮小の話を耳にしました。今年は企業淘汰、生産縮小、更なる良質原木の不足による品質低下などが起こるだろうし、値上げも必死にならざるを得ない状況にあると思います。かつてのような暴騰をすることは無いと思いますが、価格の底上げがあると予測します。

次に、国内合板ですが、国産広葉樹合板は、縮小すると思います。当社も、子会社の広葉樹合板工場、三興プライウッドを今年 3 月で閉鎖いたします。皆様には、40 数年に渡り、大変お世話になり、安定供給が継続できず、申し訳ありませんが、厳しい経営環境の中で、苦渋の決断となりました。

国産針葉樹合板ですが、以前より新規投資により供給能力は増えています。キャパとしては、大きくなっており、今年も一時的には不足感はあるかもしれませんが、大きな心配はしなくてよいのではないかと見ています。ただ、価格面では 2012 年後半を底として上がっていくと予測します。

もうひとつの変化ということで、繊維板、削片板、合板の兼ね合いについて、お話させていただきます。2004 年と 2012 年の日本の合板を含む、木質ボード総需要を見ますと、2004 年には、1,100 万㎡あったものが 900 万㎡に、200 万㎡も大幅に減った。主な理由は、2004 年は着工数が 119 万戸あったものが、2012 年に 88 万戸に減少したからです。木質ボード類で、こ

●国内・輸入合板の供給量と新設住宅着工数（うち木造住宅着工数）予測

平成 25（2013）年	合板供給量			新設住宅着工数 （うち木造住宅）
	国内合板	輸入合板	合 計	
柴田社長（伊藤忠建材）	275 万㎡	355 万㎡	630 万㎡	93 万戸（51 万戸）
高光社長（三井住商建材）	280 万㎡	350 万㎡	630 万㎡	92 万戸（50.6 万戸）
竹下社長（双日建材）	260 万㎡	360 万㎡	620 万㎡	90 万戸（54 万戸）
小室社長（丸紅建材）	265 万㎡	350 万㎡	615 万㎡	91 万戸（50.5 万戸）
工藤社長（トーヨーマテリア）	262 万㎡	360 万㎡	622 万㎡	92 万～93 万戸（50.6～52 万戸）
上山副社長（住友林業）	274 万㎡	365 万㎡	639 万㎡	92 万戸（50.6 万戸）

工藤社長 竹下社長 上山副社長 小室社長



柴田社長 大久保 高光社長

の8年間で、減ったものは、輸入合板、国内広葉樹合板、パーティクルボードなどでした。一方、総数は、減っているのに、増えているのは、針葉樹合板とMDFです。この傾向は、今後も、続くと思て良いのではないのでしょうか。

高光 広葉樹はほぼ収束に向かっていくと思います。南洋材原木離れ、価格の高値張り付きにより最早国内工場にとって現状維持は困難な状況で、一部の特殊合板分を除いて輸入物、MDF等のボード類に替わっていくと思います。

一方、針葉樹合板は、住宅を始めとする合板総需要の増加は間違いないところで、キャパも十分にありますので生産量は確実に伸びていくでしょう。製品の用途開発も徐々に進んでいくでしょうし、政府の後押しもありますので、引き続き増えていくと思います。

繰り返しになりますが、国内針葉樹合板は膨大な生産能力がありますので、需要を上回る増産をすると瞬く間に需給バランスが崩れる懸念があり、需要動向に応じた生産調整および出荷が極めて重要だと思います。

次に輸入合板ですが、全般的には柴田社長が仰るとおり現地のサプライヤーが疲弊してきています。第三国市場の景気低迷、工場賃金の大幅な上昇、丸太伐採地の遠隔化による搬送コストの上昇、丸太品質劣化による歩留まり悪化等々、現地合板工事を取り巻く環境は日増しに厳しくなっています。一方、インドネシア国内の景気が非常に良いので、合板業を止めて、不動産業をやった方が良いという声も一部で出始めています。また、頼りにしていた資源系の採算が大変厳しくなっています。パームオイルは何とか利益を確保できているが、利益率が大幅に落ちているし、石炭も柴田社長のお話のとおりです。乱暴な言い方をすれば、インドネシア、マレーシアの合板工場は、淘汰～サバイバルの第一段階が始まるのでは。「もう止めた」という工場が出てくるのではないかと思います。これが総論です。

個別論では、インドネシアでは、伐採規制が強化されて天然林を原料とした合板は減少。一方で、インドネシア国内の需要増、米国の住宅着工も回復基調にあり対日出荷量は現状維持が限界、増やすことはできない。薄物・中厚高級合板は、採算難から撤退する合板メーカーが出てくる可能性が高い。特に天然林を原料とする合板は、コストに見合う価格適正の高い商品へのシフトが進んでいく。フロー台板は植林系の原料へのシフトが更に進んでいく。

マレーシアに関しては、賃金上昇、原木の品質劣化に伴う歩留まり低下によるコストアップで輸出価格への転嫁が進む。同じく採算割れから撤退への動きが始める。シッパーの寡占化が更に進み、最大手がプライスリーダーとしてのポジションを一段と高めていく。植林木へのシフトにドライブがかかり、品質面での不安定さをユーザーが如何に使いこなしていくかが大きなポイントになっていくのではないかと思います。

その他市場については、中国は昨年は入荷量が減少しましたが、東日本大震災後の品質問題も工場の選別

により改善されてきていますので、平成25年以降は入荷量も回復すると思います。ベトナムは、現状年間4万㎡程度の入荷量かと思いますが、コスト競争力を武器に今後も増加が予想され、注目されるでしょう。ただ、用途が現状梱包用に限定されていますので、存在感を示すような数量になるには相当の時間を要するでしょうが、その他の供給源として注目度が上がっていくと思います。

竹下 国産合板については、2013年は需要拡大の素地ができる年になるという気がしてなりません。何故かということ、まず自民党への政権交代により国産材を使う政策がより具体的に現れて来るような気がします。今、針葉樹合板メーカーは塗装型枠、フロー台板等の用途拡大の研究開発をしていますけれども、まだまだ認知されるまでの品質に至っていません。しかし近い内にこの研究開発は実を結ぶと思います。

弊社は太陽光パネルを売っていますが、九州で太陽光を載せる際、従来の野地板では弱すぎるので12mm合板に変えたという例も出てきていますので、既存の分野でも色々針葉樹合板の需要が伸びる可能性が広がっています。

もしも、国土交通省が公共構造物、橋桁、道路建設に針葉樹型枠の使用を推奨したなら、一気に針葉樹型枠の利用の流れが起き、遅々として認知されない現状が変わってしまうでしょう。今年は、国産合板にとっては非常に面白い年になると思います。

輸入合板については、皆さん仰っているように産地の供給力は減退するでしょう。サプライヤーも大手では世代交代が進んでいます。彼らの親は、会社がパームオイルや鉱物資源採掘等へ収益の柱を拡大しても、自分の父親が始めた合板製造にノスタルジーがあり事業継続をして来た面があります。しかし3世代目の若い経営者には、会社の起源となった合板製造に対する感傷は無く、それよりも事業の採算重視という人が増えてきています。私は、早晚「もう合板事業は中止」と言う経営者が出て来る、或いはそんなところまで追い込まれてしまった経営者が増えているという気がします。

今年は、マレーシアのほうが賃金アップは激しいのですが、インドネシアでも賃金アップによるコストアップが対日合板価格にも突きつけられて来ます。インドネシアは非常に景気が良く、例えばファルカタ合板、綺麗で安いので輸入が始まったのですが、インドネシア国内でもファルカタ需要が高まり価格を押し上げた結果、生産者は品質にうるさい日本よりもインドネシア国内を選び、日本市場を見向きもしなくなっています。日本はインドネシアにとっては最大の合板輸出国ですが、対日輸出意欲は明らかに減退しています。マレーシアでもますます大手に寡占化が進み、日本が対日輸出価格をコントロールできる状況にはありません。

輸入合板で唯一不安に感ずるのは高光さんがお話された中国とベトナム産の合板品質です。きちんと品質管理されたマレーシアやインドネシアの製品と同等の品質だが、安い輸入合板として末端に流通してしま

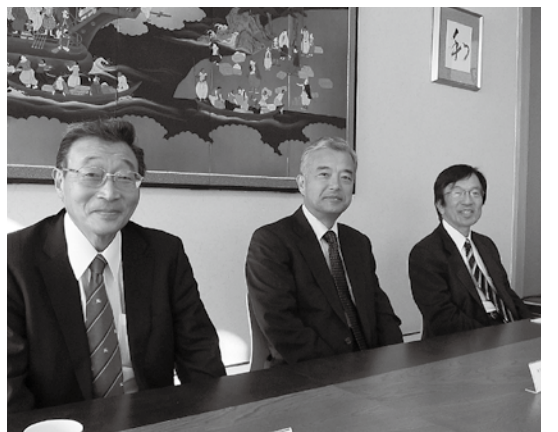
う。結果として安い価格だけが市場に残り市況下落要因になってしまう。後日、現場で品質問題が発覚しても、価格の安さと品質問題を結びつけた説明が成されないで、市況下落の修正は行われぬ。このような間違った情報の流布を懸念しています。やはり、輸入する者が責任をもって生産者側のJAS管理体制をきちんとチェックし、品質に関する情報をきちんと買手に説明しなければならない、そうしないと大変不幸なことになると思います。

小室 輸入のほうですが、皆さんから産地の人件費アップの話が出ましたが、インドネシアではジャカルタの特別州、あるいは西ジャワのブカシ地区で44%増という発表になったのですが、実は、ここに至るまでにインドネシア国内では相当もめているんですね。インドネシア経営者協会のソフィアン会長は、インドネシアの地方政府は我々の話には全く耳を貸さず労働組合の声のみを聞いたということでクレームを出しています。

ただ、ユドヨノ大統領が「インドネシアは低賃金の時代は終わった」と、「労働者の労働条件改善は政府の道徳的な責務だ」というコメントを発表してしまして、過去3年間で賃金は倍に上がっているわけですが、でも、インドネシアのGNPも倍に上がっています。だからこの流れは変えられない、かつての供給拠点から市場へと大きく変化してきているということが言えると思います。インドネシアからの100万㎡という数字は、これはマックス。下がることはあっても、これ以上増えることはないと言えます。

マレーシアに関しては、自国の活況によってインドネシアからの労働者がリターンする傾向が増えているということで、難しい局面にきているかと思っています。

国内合板については、広葉樹合板は今年も厳しい状況がつづくと思られます。一方、針葉樹合板については皆さんと同じです。消費税増税前の駆け込み需要、復興需要、或いは輸入合板の頭打ち等々により間違いなく伸びていく。プラス、木造住宅向け構造用合板以外の用途、国産型枠を含めて、これの更なる需要増が予想される、と思います。



工藤 国内合板のうち針葉樹合板は、例えば政府による公共建築物等木材利用促進法とか、地域型住宅ブランド化事業の建築とか、そういうものに使われることで増えてくる。新規の用途開発がさらに進んで、既にフロー台板とか、型枠は少しずつあると思うのですが、今後はMDFやパーティクルボードとの複合での合板ですとか考えられたりして国内の針葉樹合板は先ほど申し上げた数字よりも更に増えるかも知れないと思っています。

もう一つは、昨年、中央高速でトンネルの崩落がありましたが、道路にしても、橋梁にしても、トンネルにしても、「危険だ」という場所は何年も前から指摘されていました。それに対して公共投資は悪というイメージがあり、何より財政赤字のため投資が成されないまま来てしまっていました。実際にあのような事故が起きてしまうと、今年から一気に動き始める可能性があるのでは合板の使用量は更に増えていくと思っています。

国産材の広葉樹合板については、今年から数年間は需給が均衡する、と思っています。ただ、丸太の手当ての面で、生産が減ってくれば減ってくるほど原料丸

太を港に上げるのが難しくなってくると思います。

輸入合板については、皆さんがお話されたとおりで、最低賃金が上がると1㎡当たりUS\$30～US\$40くらい上がることが予想されます。コストが上がってくる分を価格に転嫁してくるのは間違いないと思います。

ただ、中国が米国のアンチダンピングに引っかかって米国への輸出が今年からできなくなるかもしれません。中国国内も景気が良くない、ヨーロッパも、中東も良くない、そうすると、この分が何処に出てくるか、ということが懸念されます。

上山 すでに皆様が言われたこととほとんど同じ内容ですが、国内合板に関しては、基本的には需要が拡大する年になると思います。昨年の動きを見ていますと、昨年9月までは非常に需要が低調で価格が低迷していましたが、10月以降全体的に動きがよく、なおかつ今年の着工が予測通り堅調に推移すれば、合板は実需としての動きが出ると思います。

現状の国内合板の価格は安すぎると思いますし、切り捨て間伐をさせないために大量に間伐材を市場に出してしまったことで原木価格が暴落してしまったこともその要因の一つです。しかし、昨年、実需が低調で低迷した合板価格も、国産材の原木相場も底を打ちはじめましたし、実需も回復する兆しを見せています。

皆様もご承知のように、背景には木材の利用促進政策である「森林・林業再生プラン」や「公共建築物等木材利用促進法」といった政府の後押しもありますし、需要の拡大も重要なことだと思います。国産材を本気で使うためには、間伐材に補助金を出すことよりも、需要拡大が大切だということに行政側もようやく気がついてくれたと思います。建築物への木材利用のみならず、例えば、塗装型枠、MDFとの複合化、壁材料などの用途開発や商品開発が進んでいることもあり、確実に需要が増えていくと考えています。

国内の広葉樹合板に関しては、原材料という点で難しいものがあり、頭打ちだと思います。

一方、輸入合板についての最大の懸念はコストアップです。インドネシア、マレーシアの最低賃金の問題、それから原材料確保のためのコストが非常に高くなっていますし、バイオマスと合板原材料との競合ということも一部出てきています。中国、インドの需要は一時期に比べ落ちているように見えますが、それでも購買力はかなり強いものがあります。インドネシアも今まで輸出国だったのが、完全にマーケットとしての消費国になっています。そういう意味では、日本が輸入合板を買うおうとする場合に非常に高いものになることは避けられないと思います。

ただ、今後は、ユーカリ、ラジアータパイン、ポプラといった現状日本では使いにくいと言われている材料でも、用途開発していくことによって、ある程度利用していくべきであり、また世界的スタンダードと思われる品質や規格に対応する動きも日本で必要になっていくと思います。

工藤社長のお話にも出ましたが、公共工事に期待が持てるという点でも、本年は合板の需要拡大の一つの節目になるのではないかと思います。

●どうなる、平成25年度の建材業界動向

司会 それでは、平成25年度の建材業界がどのようになっているか、お聞かせ願えますでしょうか。

柴田 基本的には、需要は盛り上がりますので活況を呈するのは間違いないのではないのでしょうか。ただ一方では、職人不足問題と一部資材の欠品問題が出てくるのが、予想されますので、こうした問題を早めに手を打つことが、必要な年になると思います。

高光 全く同感です。どう考えても需要が増えるのは間違いないでしょう。そこヘトンネル老朽化問題等々で公共工事が増加（国土強靱化策）し、ばら撒きも含めて相当需要が刺激されると思います。そこに復興需要も加わり、消費税増税前の駆け込み需要も前回よりは少ないとは言え確実に出てくる。一方で、仕事が平

準化することは困難で、ほぼ同じタイミングでドッと来ると思います。そうすると、職人も足りなくなるし、欠品も出てくる、特に職人不測問題は非常に大きな経営リスクと認識しています。この点が顕著化する年になると思います。

竹下 住宅着工と需要はしっかりあり、日本で唯一恵まれた業界ではないかと思います。自動車産業やIT産業の惨状を見るにつけ、内需を相手に取引している我々は本当に恵まれていると思います。職人不足は極めて深刻な問題ですが、逆にこの不足により駆け込み需要増とその後の需要減退という過去に経験した悲惨な展開は回避されると思います。需要は将来へ平準化されるので今後3、4年は堅調な需要が続く非常に良い業界だと思います。



大工さん不足や一時的な欠品と言う問題も、そういうことを通じて住宅メーカーに集中している業界全体の収益が、川上にも適正配分され直すきっかけとなるのではないかと期待しています。これは業界にとって大変重要なことです。さもなくば、大工さんや配送を担ってくれる次の世代が業界に来てくれません。業界収益の再配分が行われることにより、全てにおいて良い事づくめの業界になるのではないかと思います。

小室 輸出が厳しい中で他業界は苦戦を強いられています。そういう中であって我々はベターな環境下にあるのかなと思います。この良好な環境が維持されている2、3年の間にどうやって次の手を打っていくのか、これがポイントになると思います。

懸念材料としては世界経済の低迷等々もありますが、目先の問題として3月末に期限切れになる「中小企業金融円滑化法」、これによって更に勝ち組と負け組みの鮮明化が出てくるのではないかと思います。

工藤 全体としては、景気は良好であると思います。合板や各種建材に一部不足するものが出てくる可能性があると思っています。職人さんの問題は、更に深刻になってくる。与信問題が心配です。これらは皆さんのお考えと共通していると思います。

もう一つ、私は、住宅が二つの方向に分かれていく、と考えています。例えば、住友林業さんが建てているような高額の住宅が、持ち家が増える中で増加すると思います。

一方、先ほど戸建住宅の購買層が35歳～45歳という話が出ましたが、私は、分譲住宅を購入している層は30歳±2歳に下がってきていると思っています。そうすると、35年の住宅ローンを組むと、65歳くらいで返済できるわけですが、どんなに金利が低いとはいえ、銀行が貸してくれなければどうにもなりませんから、30歳で貰っている給料から逆算して買える住宅はどうしても安くなってしまふ。そこで分譲住宅の価格は安いものが増えてくる、と思っています。

上山 業界全体の動向としては、すでに皆さんが仰っているとおりだと思います。堅調、むしろ良好な推移になると予想しています。

注目すべきポイントとして、住宅の省エネ基準が、2020年までに義務化されるという動きになっていて、住宅に使用される資材の高性能化と新商品開発が非常に重要になり、業界のいろいろなところにビジネスチャ

ンスが出てくるのではないかと思います。

例えば、義務化される省エネ基準では断熱性能を明確に証明しなければならないため、従来の筋交い工法よりも、性能値が高く、性能も証明しやすい壁パネルを利用する動きがすでに始まっていますし、2030年のゼロエネルギー住宅の標準化に向けては引き続きHEMSなどの環境商品が伸びてくるものと思われます。

もう一つのポイントは、国などの施策により非住宅の木造化が確実に進むことです。すでに非住宅の大型木造物件が受注できるよう設備投資に動いているプレカット工場もあります。そういった意味でも商品開発、設備増強が進んでいくとみております。

一方で、職人不足が課題となりますが、左官、基礎工事、サイディング工事などの職方の不足で契約ベースでは順調でも、着工が進まないことによってせつかくの需要が取り込めない可能性があります。その反面、ある程度着工が平準化していき、生産能力に合わせた着工計画が定着していくようになると思います。

●ずばり、今年の合板天気は？

柴田 需要は増えます。合板については、内外共に、供給キャパも、十分あると思っていますので、供給に困る事は、基本的にはないと思います。輸入合板は、コスト高で、上がる、そして、為替も、円安傾向。国産針葉樹についても、秋需に向けて、価格は、上がって行くのではないのでしょうか。しかし、かつてのような大幅な乱高下ではなく、穏やかな上げにあるのではないかと思います。

高光 繰り返しになりますが、国内は十分なキャパを有していますので、この程度の需要増には全く問題なく対応できると思います。供給過多となり需給バランスが崩れると、需要はあっても価格は下がるでしょう。

輸入に関しては、コストの問題があるので無理をして作ってこないし、合わないなと思えば止めるでしょうし、堅調に推移していくと思います。多分、春までは上昇気配で進み、その後ジワッと上がってくれば良いと思いますが、需給バランスによっては多少上下し、再び秋に盛り上がる。いずれにしろ、お祭りのような乱高下はもうない、一定の範囲内での小幅な値動きの中で推移していく、全ては需給バランス次第となるでしょう。そこを誤ると、仕事があっても値段は下がってくると思います。

竹下 需要は昨年よりもあるわけですから、我々建材商社と各メーカーさんが大人の対応でこの需要に応える努力をすれば、業界の全ての人にとって幸せな状態になると思います。

理性ある取引をして、合板という素晴らしい商品を傷つけないようにしたいと思いますね。

小室 合板の供給量は伸びるのは間違いないと思います。繰り返しになりますが、私も、合板価格は需給バランスに尽きると思います。合板は住宅の基礎資材です。他の資材に影響を及ぼす重要な商品ですから、合板だけ良ければいいというのではなく、業界を挙げて、是非大切にもっていきたい、と思います。

工藤 流通量は確実に増えるわけで、そのところで値段の問題が出てくる「値は品を呼ぶ」というものですから、必ず余ってくる。豊作貧乏ということにならないように祈っている、お願いしたいと思います。

上山 皆さんが言われるように需要は堅調で、輸入合板はコスト高による価格上昇、国内合板のメーカー様もワンランク値を上げて安定供給を目指し、用途開発も進めていきたいはず。大幅に暴騰する、逼迫するようなことは、今年は起きないだろうと思いますし、起きて欲しくないと思います。

仮需が出た場合には、そこをしっかりと見極めて安定した価格に落ち着くことで、安心して使える材料であるという合板のポジショニングを我々流通が作っていかねばならないと思います。

司会 ありがとうございます。

お役立ち！『快適住実の家』は、業界の動きを先取る工務店様支援として
さまざまなサービス・サポートに取り組みます！

『快適住実の家』

ご提供サービス！

快適住実の家

瑕疵保険の団体割引

会員の方は、予めご登録頂くと瑕疵保険の団体割引を適用することができます。
当会では、2つの保険法人をご利用いただけます！
※別途技術基準あり



住宅履歴の図書館

住宅の図面等をお預かりし、電子化して保管します。
また、長期維持管理計画のお手伝いをし、引渡後のアフターサービスのお手伝いを致します。



当社は、いえがるて正会員です。

JK サポートセンターのご利用料金優遇！

さまざまなサポートサービスを、会員様価格にてご提供します！

お値段は、一般価格より**10% OFF!**
ハウス・デポ 協定工務店は、**15% OFF!**

サポート内容についてはお問い合わせ下さい。

地盤調査会社のご紹介

安全で安心できる住まいをご提供するには、しっかりとした地盤情報が大切です。当会では、日本全国対応させていただく調査会社をご紹介します！



各種セミナー

各種サポートについてのご説明や、国策に関する情報発信等のセミナーを行います！

会員証の発行

会員様には、オリジナルの会員証を発行します。



問い合わせ先事務局		TEL
本部事務局	JK サポートセンター	03-5534-3713
北海道事務局	JK 北海道サポートセンター	011-837-1888
東北事務局	JK 東北サポートセンター	022-284-2769
首都圏事務局	JK 首都圏サポートセンター	03-5534-3815
関東事務局	JK 関東サポートセンター	048-684-2021
中部事務局	JK 中部サポートセンター	052-758-6877
関西事務局	JK 関西サポートセンター	06-4702-8151
中四国事務局	JK 中四国サポートセンター	082-250-5051
九州事務局	JK 九州サポートセンター	092-761-7138

JK Support Center アドバイス

地域型住宅ブランド化事業

当社がサポートしたグループも
多数採択されました！

地域型住宅ブランド化事業第2回の採択グループが1月11日に発表された。申請グループ数は148グループあり、そのうちの115グループが採択された（第1回は592グループが申請し363グループが採択された）。
今後のスケジュールはタイトで、補助金交付申請の受付期間は3月11日～3月31日（必着）までとしている。
なお、第2回の採択グループ向けに、補助金交付申請等に係る説明会を2月中旬に開催する予定も発表された。

認定低炭素住宅について サポート開始します！

認定低炭素住宅とは

低炭素基準を満たした住宅で、所管行政庁より認定を受けた住宅。

メリット

- 税制優遇が受けられます
- 容積率の特例があります
- 【フラット35】S金利Aプランの対象となります

サポート内容

JKサポートセンターでは、技術的適合証の発行サポートをいたします。
認定低炭素住宅に関しては、ジャパン建材へお問い合わせ下さい。
『快適住実の家』会員様は、当サポートを47,250円（税込）でご利用頂けます。



住宅省エネルギー 施工技術講習会

省エネ講習とは

- 国土交通省所管の事業として、全国の都道府県ごとに行われている講習。
- 2020年までに、新築住宅における省エネ基準の適合を100%とすることを目指し、平成24年度より全国で講習が開始された。
- 対象は、地域の木造住宅の生産を担う中小建築業者。各都道府県に事務局を置き、特に断熱施工技術の向上において重点的に取り組む。
- 当事業によって、最終的に20万人の大工技能者の養成を目標としている。

ご案内

当講習会は、インターネットからの申請も可能です。都道府県によって日程等異なりますのでご確認下さい。
当社は、会場の提供を行い、当講習会を支援しています。

「住宅省エネ講習」でWEB検索！



2013年3月15日(金)・16日(土)

第29回ジャパン建材フェア(通算71回)まで43日

はじめよう、スマートライフ!「快適住実の家」

「快適住実コーナー」
工務店様・施主様に向けた、今後のリフォーム提案のポイントとなる【高齢者向け住宅・スマートハウス】による居住空間づくりに役立つ情報を発信。スマートハウス、サービス付高齢者向け住宅、メーカーコラボによるユニバーサルデザイン、バリアフリー、Bulls活用による可能性をご紹介します。

◎詳細につきましては、2月中旬発行予定の「第29回ジャパン建材フェアガイド」をご覧ください。

第29回ジャパン建材フェア 各セミナースケジュール

快適住実セミナー

3月15日(金)	タイトル	講師
11:00～12:00	『主婦をターゲットにした住宅見学会～時代に合った集客で勝ち残るための方法～』	(株)Seeders 代表取締役 下田 典子 氏
12:30～13:30	『新しい木の時代の到来』	東京大学名誉教授 農学博士 安藤 直人 氏
14:00～15:00	『スマートハウスで変わる室内環境をどうするのか?～省エネ・節電だけでなく住みやすい居住空間を創るかによって決まる～』	(有)ひと・環境計画 代表取締役 濱田 ゆかり 氏
3月16日(土)		
11:00～12:00	『中古住宅流通と工務店の取り組み』	関東学院大学 工学部教授 中島 正夫 氏 (株)ホームラボ 代表取締役 徳富 総一郎 氏 (株)日本住宅新聞社 編集長 佐中 敦 氏
12:30～13:30	『新しい木の時代の到来』	東京大学名誉教授 農学博士 安藤 直人 氏
14:00～15:00	『リフォームで変わる住宅業界の今後』	日菱企画(株) 長井 智史 氏

住宅保証セミナー 3月15日(金)／16日(土) (各回20分)

	タイトル	講師
10:00～10:20	『ハウス・デポ・ジャパンのリフォーム市場への対応』	(株)ハウス・デポ・ジャパン
10:30～10:50	『明日から役立つ【フラット35】活用術』	(株)ハウス・デポ・パートナーズ
11:00～11:20	『リフォーム保険で安心の住まいをお手伝い』	住宅保証機構(株)
11:30～11:50	『改正省エネ基準に対応した住まいづくりとは?』	NPO 法人 消費者住宅フォーラム
12:00～12:20	『認定低炭素住宅と改正省エネ基準について』	(独)住宅金融支援機構
12:30～12:50	『雨漏り事故の防止と今後の対策～転ばぬ先の杖・誰も教えてくれない雨漏り事故の解決策～』	(社)雨漏り検診技術開発研究所
13:00～13:20	『ハウス・デポ・ジャパンのリフォーム市場への対応』	(株)ハウス・デポ・ジャパン
13:30～13:50	『明日から役立つ【フラット35】活用術』	(株)ハウス・デポ・パートナーズ
14:00～14:20	『リフォーム保険で安心の住まいをお手伝い』	住宅保証機構(株)
14:30～14:50	『認定低炭素住宅と改正省エネ基準について』	(独)住宅金融支援機構
15:00～15:20	『こうすればできる施主が満足する「快適住実住宅」とは?』	NPO 法人 消費者住宅フォーラム

木質実践ミニセミナー (各回30分程度予定)

3月15日(金)	タイトル	講師
11:00	「国際森林認証制度の基礎知識とPEFCの現状」	PEFC アジアプロモーションズ アシスタントマネジャー 堀尾 牧子 氏
12:00	「里山の木で建築する」	物林(株) 北海道建設資材部 部長 金川 晃 氏
13:00	「大断面構造用集成材・材料と施工」	秋田グルーラム(株) 営業部長 阿部 武志 氏 営業課長 阿部 孝紀 氏
14:00	「カナダ産 OSB 構造用パネルについて」	APA エンジニアード・ウッド協会
15:00	「中大規模・木質構造」	ジャパン建材(株) 木構造建築事業室 室長 内野 吉信 氏
3月16日(土)		
10:00	「国際森林認証制度の基礎知識とPEFCの現状」	PEFC アジアプロモーションズ アシスタントマネジャー 堀尾牧子 氏
11:00	「里山の木で建築する」	物林(株) 北海道建設資材部 部長 金川 晃 氏
12:00	「大断面構造用集成材・材料と施工」	秋田グルーラム(株) 営業部長 阿部 武志 氏 営業課長 阿部 孝紀 氏
13:00	「カナダ産 OSB 構造用パネルについて」	APA エンジニアード・ウッド協会
14:00	「中大規模・木質構造」	ジャパン建材(株) 木構造建築事業室 室長 内野 吉信 氏

豆事典

住宅のより高い耐久性・耐震性を実現するためには適材適所の素材選びが重要です。そこで、構造用木質ボードの一つで、環境配慮型製品としても注目される「OSB」の活用に役立つ情報をご紹介します!

OSB の使用例

ホルマリンF☆☆☆☆対応、木の特性を活かし繊維を縦・横方向に配置することによって上下左右の地震力に対して抵抗力を発揮、さらに高壁倍率を取得したOSBもあり、用途は多彩。



構造用使用例



I ビーム使用例



内装用使用例

JKトピックス

第24回 台北国際建築建材展及び産品展

優秀出展企業に選ばれる

出展企業 約400社強

来場者 4日間でおよそ60,000人



昨年の12月13日より16日の4日間にわたり、台湾の台北世界貿易センターにて開催された第24回台北国際建築建材展及び産品展。この展示会は台湾で最大規模の国際的建築建材展示会であり世界貿易センターの第1、第3展示ホールで開催され、使用小間数は1700を超えます。

JKグループの海外拠点の一つである新日緑建材股份有限公司は今回3回目の出展を果たしました。新日緑建材股份有限公司は日本の優れた建材を台湾市場に流通させる為に、営業活動をしております。社名の中にある「緑」の漢字は、中国語でエコという意味を持ち、特にリサイクル可能な建材や、調湿機能や環境に配慮した建材を中心に扱う事を主としています。展示ブースには今回もエコ建材を中心に展示しました。

昨今、複雑な社会情勢ではありますが、台湾は以前より親日の国であり、こうしたことから日本の建材は非常に人気が高く、新日緑建材股份有限公司のブースは4日間の開催期間中非常に多くのお客様に来場していただきました。

台湾はコンクリートの住宅が主であり、仕上げにはタイル張りが多いことから展示した商品の中でサイディングには特に興味を持っていただきました。展示会開催中は会場内を審査委員の方々が各ブースを採点し、3日目に採点を基にした表彰があります。新日緑建材股份有限公司は前回に引き続き出展企業400社強の中の30社に贈られる優秀出展企業に選ばれ、台湾副総統から表彰され賞状を授与されました。JKグループの会社がこのような表彰をされることは大変喜ばしいことであり、今後ジャパン建材を始めとして、各海外拠点との繋がりがや発展がますます加速してゆくことが望まれると感じました。

耐震性・耐久性に優れた JAS
『厚さ12mm国産構造用合板』で
強い家づくり

必須商材

★桢組壁工法の施工については、
厚さ 12mm国産構造用合板
桢組壁工法 壁倍率 5.0
4.8 倍, 4.5 倍, 3.6 倍施工概要を
ご覧ください。

発行：東京合板工業組合 東北合板工業組合



『厚さ 12mm国産構造用合板』を使用した耐力壁は、木造軸組構法で壁倍率 4.0、桢組壁工法で壁倍率 5.0

ポイント1

JAS 構造用合板を使用した耐力壁は、強度、耐久性、施工性等に優れ、安全・安心・快適な住宅づくりに貢献。

ポイント2

建設省告示の倍率 2.5 に加え、国土大臣認定を受けたこれらの合板張り耐力壁により、設計の自由度が広がる。

ポイント3

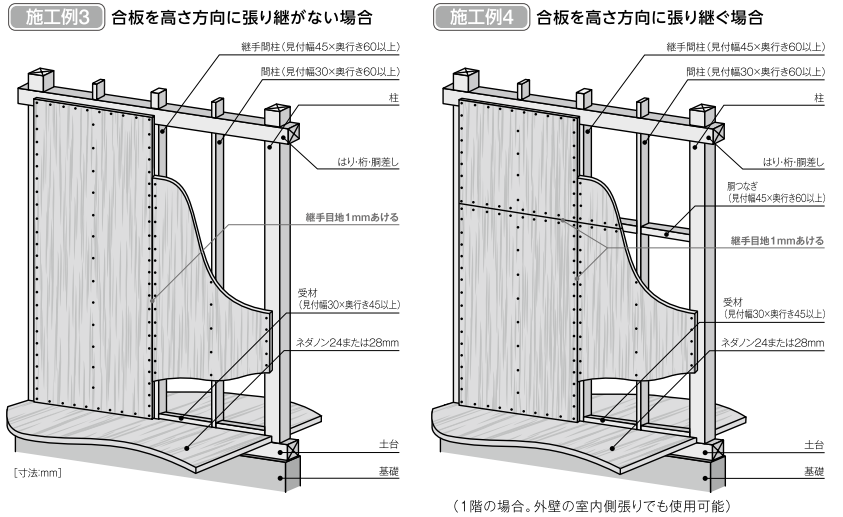
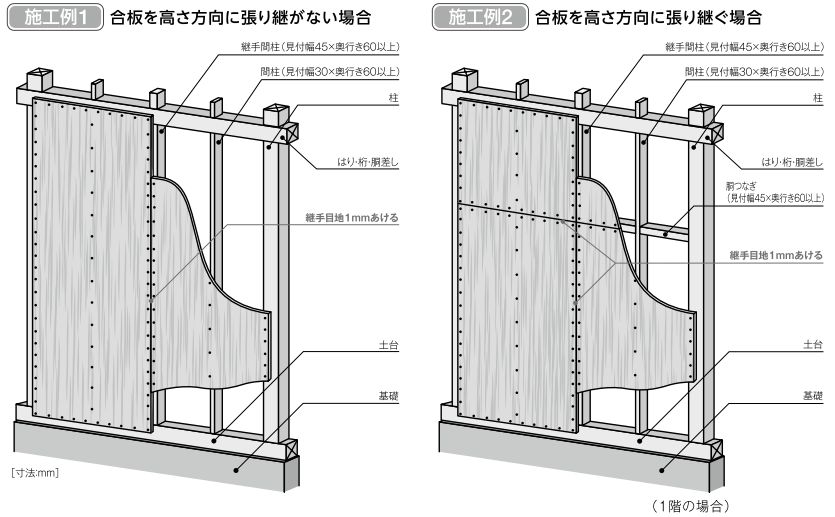
国内で生産された合板は、豊かな森林づくりや二酸化炭素の削減に貢献する、環境に優しい建築資材である。

大壁仕様「倍率4.0, 倍率3.8, 倍率3.1」

大壁仕様（外壁の施工図） FRM-0335,FRM-0416,FRM-0415

大壁床勝ち仕様「倍率3.6, 倍率3.2」

大壁床勝ち仕様（間仕切り壁の施工図） FRM-0334,FRM-0414,FRM-0336



■仕様と倍率

大 壁 仕様No.	合板の止め付け方				壁倍率	認定番号
	くぎ	間 隔		縁端距離		
		外周	中通り			
仕様①	CN65	100mm以下	200mm以下	15mm	4.0	FRM-0335
仕様②	CN50	75mm以下		12mm	3.8	FRM-0416
仕様③	CN50	100mm以下		12mm	3.1	FRM-0415

■仕様と倍率

大 壁 仕様No.	合板の止め付け方				壁倍率	認定番号
	くぎ	間隔		縁端距離		
		外周	中通り			
仕様④	CN65	100mm以下	200mm以下	15mm	3.6	FRM-0334
仕様⑤	CN50	75mm以下		12mm	3.6	FRM-0414
仕様⑥	CN50	100mm以下		12mm	3.6	FRM-0336

自宅のシャワーヘッドに簡単取り付け
施工いらずのミスト『マイケアミスト』

株式会社ノーリツ

ノーリツが、本格的なミストサウナを提案してきたノウハウを活かし、コアターゲットを30代女性に据えた“女性による女性のための商品開発”の視点を加えて誕生させた『マイケアミスト』。その訴求ポイントは、お風呂に入りながら手間暇かけずに美肌効果が得られる。かつ、1回の使用にランニングコスト約18円という経済性も大きな魅力だ。

【色味の濃淡が強い特徴を独特の意匠に生かす】
ノーリツでは、新商品開発のコアターゲットである30代女性65名にミストに関するアンケートを実施。その結果、「ミスト」認知度80%超、「ミスト」への要望としては「美肌効果」を期待する（45%）傾向と、「利用する場所がない」

という不満があることも明らかになった。これらを踏まえ、2年目コンビの女性担当者が商品企画・商品開発に携わって生まれたのが『マイケアミスト』。忙しい女性のニーズに応えた商品である。

【自宅で「エステ気分」を実現】
30代女性が期待するミストの効果第一位は「美肌効果」（45%）。半身浴とミストの組み合わせは、スキンケアの観点から相性がよく、肌水分量を増加させる。
特に、半身浴をしながら胸元（デコルテ）から頬にかけて48℃のミストを浴びる入浴方法は、ミスト浴の保湿効果を高め「エステ気分」を楽しめる。



和風・洋風を選ばない、あらゆる用途にジャストフィットする『ジャストパネル』

株式会社ウッドテック

壁・天井・腰壁・建具・クロスの代わりになど、あらゆる用途にフィットする『ジャストパネル』は、新築にも、リフォームにも使える。表面に柾目単板を使った見た目がキレイで多彩な合板の特色を備えた合板製品だ。

【特色の多いポプラ合板パネル】
◇ロータリーレースで製造した単板を加工し、キレイな柾目を実現
◇表面に継ぎはぎが出ない
◇JIS一般工業製品試験の結果、「カビに強い」ことが証明されている
◇木地が白いので、着色で理想の色が出る

【用途いろいろ】
◇継ぎはぎがないので天井・腰壁。建具の面材など
◇カビに強いので収納内部など
◇着色が容易なので、居室の壁面など

【選べるサイズ】
◇ 4mm×910×1820
◇ 5.5mm×910×1820
◇ 4mm×910×2420
◇ 5.5mm×910×2420



SIMAUMA
Collection

しまうのが上手くなる収納
シマウマ・コレクション

シマコレ

検索

新築時は収納計画の
絶好のチャンス!

お悩み解決！ 楽々収納

「どうしたら、もっと家が片付くの!？」実はみんなが悩んでいた収納問題。ミセスのリアルな声を元に、ミセスの悩みを収納セラピストが解決!簡単に仕舞うのが上手くなる収納「シマウマ・コレクション」です!

収納セラビスト

**お悩み
CASE
1** クローゼットに
洋服が入りきらない!

空間を隅々まで活用できれば
もっとたっぷり仕舞えて、
使いやすく片付きます。

前座用ハンガーパイプ
+フックで
コーディネートもラクラク

CAS
2

洗面室周り
モノが多くて片付かない!

限られたスペースだからこそ
機能的な収納が大活躍。
タオルもストックもどんどん入る!

背が高い
ツール
タイプ

スライド
ドアで

トイレの壁紙を
活用して賢く

家族のバ
スマツ

自由自在の
可動棚

お悩み
CASE
3

リビングにはモノが
出しっぱなし…。

TVや本、掃除機などモノが集まるリビングは、事前にモノの指定席を考えておくことが大切

可動機だから
掃除機や
大きい物もOK!

お作
CA

サンダルもブーツも
あふれる玄関…。

家の顔となる玄関には、家族の靴量に合わせた収納があればいつでもすっきりキレイ。

大容量のシューズクロークは
「動機だからブーツも余裕で収まる！」

高級感ある
表面メラミン

高級感ある
表面メラミン

収納力たっぷりのトール型なら
家族の靴をしっかり収納

0mmピッチ
移動できる

我が家にピッタリ
サイズの本格
オーダーメイド

1mm単位
まで



ジャパン建材 合板部
部長 内藤 裕之

新設住宅着工戸数

11月の新設住宅着工戸数が80,145戸（前年同月比110.3%）となり、前月比では3ヶ月連続の増加となった。マンション以外のすべてが増加したが、なかでも貸家は3ヶ月連続で大幅な伸びが続いている。マンションとは対照的に戸建分譲は好調な着工が続き2ヶ月連続一割強の伸び。木造住宅は45,749戸（前年同月比114.0%）で木造比率は57.1%。マンションが減少したことから、比率は前月比では2.1ポイント上昇している。

国内合板

11月の国内合板生産量は23.4万m³（対前年比107.2%）と発表された。そのうち針葉樹合板の生産量は21.5万m³（同109.6%）で昨年の最高記録を塗り替え21万m³超えは前月に引き続き2ヶ月連続となるが、2007年の7月から5年ぶりである。

出荷量も好調で22.5万m³（同120.5%）とこちらも2006年6月最高記録23.8万m³に次ぐ数量となり、在荷量は17.9万m³となり昨年

1月に次ぐ低水準となっている。今後もこの状況が続くと思われる。

輸入合板

輸入合板は、強気調が浸透し、12mm厚品を中心に動き好調。11月の入荷量は28.2万 m^3 （前年同月比106.3%）で前年比増、前月比では減少となった。1～11月の累計では前年比5.6%のマイナスと昨年の入荷ペースに追いつきつつある。

マレーシア・中国・インドネシアからの入荷は軒並増加しているが、全体的に港頭からの出荷も依然好調で需給バランスは取れている。現地は雨季で原木供給がタイトになってきており、最低賃金法により労賃引き上げによるコスト上昇、急激な為替の円安もあり大手メーカーは引き続き強気姿勢は崩さず、今後は値上げのペースを速めるべく大幅な値上げの提示を打ち出すと思われる。

国内・輸入合板共にムード良く、当分晴れ間が続く展開が予想される。ユーザーには的確な情報を提供し早め早めの手配をお願いしたい。

**JK お客様
センター**

お聞かせ下さい。お客様の声！
フリーダイヤル 0120 (563) 568 受付時間：平日 8：30～17：20
土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏季休暇は、受付を休ませていただきます。

企画
発行

〒136-8405 東京都江東区新木場1-7-22
 TEL:03-5534-3711 (代) FAX:03-5534-3855 (代)
 URL:<http://www.jkenzai.co.jp>